

I. 事業概況報告

福祉環境を取り巻く情勢は、変化が激しく年々厳しくなっています。増大する介護費用に対し、介護保険制度の持続可能性確保の観点から、介護給付の重点化、効率化として予防給付の内容見直しなどが検討・報告されました。また、社会福祉法人には、地域に機能をいかに展開していくか、財務諸表の公開、サービスの質の評価などが求められています。

本年は第3次中期計画の初年度にあたり、第2次中期計画の積み残しと課題を明確化し事業活動に取り組みました。その中で、法人本部機能の強化については、法人の舵取りとしての経営企画室、実務的な分野を担うサポートセンターを設置しました。公益性をアピールするため、ホームページリニューアル、プレスリリースなど「見せる化」にも取り組みました。職員教育については、外部委託しコミュニケーション研修(5年未満職員8回)、管理職研修(7回)を実施しました。また、地域に必要な施設として、平成26年度松本市の整備計画に基づく「指定認知症対応型共同生活介護事業」の公募に、入山辺地区グループホーム設置を申請し、松本市から事業者としての決定を受けました。

特別養護老人ホームゆめの里和田(定員80名)では、5、10、11月に入院・退所が増加しましたが、12月以降はご利用者の身体状況が安定しました。その結果、一日平均ご利用者は76.6人で計画対比0.3人減(前年対比0.4人増)となりました。短期入所(定員4名)は空床利用を含めて一日平均7.1人で計画対比0.8人増(前年対比0.3人増)となり、長期・短期合わせた一日平均ご利用者は計画対比0.5人増の83.7人となりました。

ゆめの里和田デイサービスセンター(定員30名)では、上半期に入所、入院等にご利用者が大幅に減少しました。下半期は入院者の復帰、新規ご利用者の増加があり回復しましたが、一日平均ご利用者は計画対比1.4人減(前年対比1.0人減)の23.4人となりました。

ゆめの里和田訪問看護ステーションでは、ご利用者の入院、入所、逝去等により介護保険適用者は減少しました。しかし、医療度の高い、人工呼吸器をつけたご利用者への支援については、本年度さらに増加しました。

ゆめの里新村宅幼老所(定員11名)では、入所(短期含む)等によりご利用者が減少し、新規のご利用者も少なく、一日平均ご利用者は計画対比0.8人減(前年対比0.4人減)の8.5人となりました。

特別養護老人ホームゆめの里朝日(定員28名)では、入・退所手続きの短縮化をはかり、また、入院治療者も少なかったことで、一日平均ご利用者は27.5人となり、計画対比0.3人減(前年同数)となりました。短期入所(定員2名)は一日平均2.8人で計画対比0.6人増(前年対比0.2人増)となり、長期・短期合わせた一日平均ご利用者は計画対比0.3人増の30.3人となりました。

ゆめの里朝日宅老所(定員14名)では、入所、利用中止などにご利用者が減少し、一日平均ご利用者は計画対比2.6人減(前年対比2.1人減)の8.4人にとどまりました。

ゆめの里福祉相談センター訪問介護では、短時間ご利用者が増加したことで訪問回数17,726回、計画比112.2%となりました。また、居宅介護支援では、入所・逝去等にご利用者が減少しました。予防は増加しましたが一般の新規契約者が少なく、延べご利用者2,359人、計画対比93.6%にとどまりました。

松本市立松風園(定員100名)では、松本市と連携し入所を積極的に受け入れたことで、一日平均97.5人計画対比1.5人増(前年対比3.6人増)と在園者が増加しました。

太陽光発電(売電)事業は、パネル等は設置しましたが、大雪のため中電と接続できず売電には至りませんでした。